

議 事 録

会議の名称	令和８年度第２回松田町総合計画審議会
開催日時	令和８年７月21日（火曜日）14時00分から16時00分まで
開催場所	松田町役場４階　４Ａ会議室
出席者	１３名（名簿順） 山岸委員、山崎委員、岩田委員、陶山委員、渋谷委員、鈴木副会長、小澤委員、小川委員、古舘会長、吉川委員、藤巻委員、太田委員 事務局：政策推進課（鍵和田、鎌田、松田） （株）梵まちづくり研究所（黒丸、仙波） 欠席：鍵和田委員、松島委員、足立委員
議 題	１　会長あいさつ ２　議事録署名人（２人名）の選出 ３　議事 （１）松田町第７次総合計画策定について （２）その他 ４　閉会
会議資料の名称	資料１：第７次総合計画策定の概要 資料２：構成案 資料３：基本構想（骨子）第１編　総論について 資料４：基本目標（旧：施策の大綱）（案）
記録方法	☐全文記録 ☒発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐会議内容の要点記録
会議内容	
<u>議題１　会長あいさつ</u> ○古舘会長 次期計画策定に向けて、８年後のあるべき姿を議論していきたい。委員の皆様の意見を反映し、今までとは違う計画策定をしていきたい。また、タイトなスケジュールとなっているため、皆さまには活発なご意見をいただきたい。 <u>議題２　議事録署名人（２人名）の選出</u> 〈議事録署名人として太田委員、山岸委員が選出〉 <u>議題３　議事</u> （１）松田町第７次総合計画策定について ○事務局	

〈資料 1 について説明〉

→特に意見なし

○事務局

〈資料 2 について説明〉

→特に意見なし

○事務局

〈資料 3 について説明〉

○鈴木副会長

無駄を省く計画にしていいただきたい。生涯学習センター等、維持費等、予算が多く必要な公共施設等は今後の活用について精査をお願いしたい。

○古舘会長

13ページ、松田町の将来の人口見通しについて、現状示されていないが、2034年（令和16年）の計画終了時点における人口目標をどのくらいに設定するかが非常に重要な課題である。国立社会保障・人口問題研究所の推計もあるが、それを上回る目標を設定して努力するという考え方もある。例えば1万人をキープするという目標も考えられる。よく事務局や担当にて検討いただきたい。

○鈴木副会長

空家対策などを盛り込んでいただきたい。

○太田委員

将来の目標人口をキープすることは大事だが、さらに高齢化は進んでいく。高齢者をどのようにしていくのかという目標設定も必要。そういった観点も計画に盛り込んでいただきたい。

○事務局

よく検討します。町民アンケートの結果で、町民の皆さまが将来の人口をどのように考えているかということについては、資料3のP18に記載がある。

○古舘会長

33ページ、戦略課題2「稼ぐ力」という表現について、内容はわかるが、表現として少し気になる。観光や企業誘致を通じて経済を活性化するという趣旨は理解できるが、表現の仕方については引き続き検討いただきたい。

○陶山委員

商工・観光業としては、「稼ぐ」は良い言葉。隣の渋沢地区では、駅前開発後に一時閑散としたが、最近は若い人がどんどん入ってきて商店街が盛り返してきているという話を聞いている。松田町も利便性が高いという強みを活かし、若い人が入りやすいような店舗の支援や情報発信を強化することで、人口増加につながるのではないか。そういった視点も計画に盛り込んでほしい。

○事務局

〈資料4について説明〉

本資料は、それぞれの分野ごとに調査からわかること・方向性をまとめたものである。本日は、この分野ごとに意見交換を行いたい。各分野において目指す目標は何か、どんな課題があるか。また、重点事業・新規事業の提案など、8年後どんなまちにしたいかを伺いたい。

○古舘会長

各基本目標について、盛り込んでほしい内容を自由に出していただきたい。コンセプトやビジョンに関することから具体的なアイデアまでどのようなものでも良い。7本の柱がある。新規として安全・安心の柱があることは良いと思う。

■ 1. 質の高い学びで次代の担い手と文化を育む町（教育・文化）

○小川委員

質の高い教育を行い、松田町を県内1の教育特区とする。今の町民のための案も良いが、新しい人に松田町に来てもらうための取組も重要である。他の地域との差別化を図れるような斬新なアイデアが欲しい。子育て世代に選ばれるまちになれば、若い人が増え、人口増加や空家問題の解消にもつながる。

I C T教育の向上も大切である。デジタル化が進むと、人との関係が希薄になりやすいというデメリットも生じる。松田は自然が豊かで人口も都心に比べて少ない。そのため、人とのコミュニケーションの取り方にも併せて取り組むことができる。

○吉川委員

地域の資源を示している計画は色々あるが、どれも上手く行っておらず人が集まらない。より盛んにアピールできると良い。せっかく豊かな自然があるので活かしていきたい。

○古舘会長

松田町の公式ホームページには情報が色々掲載されているが、そもそもホームペ

ージを見る機会が少ないように思う。別のPR方法を検討する必要がある。

○山岸委員

故郷の愛着について、松田に住む子は松田、寄に住む子は寄を故郷だと思う節がある。それが相互に交わらないのが残念である。大人になった時に1つの故郷として捉えられるような交流が必要ではないか。

■ 2. 誰もが健康で思いやりのある暮らしを育むまち（健康・福祉）

○鈴木副会長

社会福祉協議会では、松田町が全国で最初に終活支援に取り組んだ経緯がある。国・県から2年間の補助金をいただいて終活を推進し、一人暮らしの高齢者の方に対して、最後にどこに移るか、誰が面倒を見るかなど、終活サポーターを配置する取り組みを行った。こうした先進的な取り組みを継続・発展させ、高齢者が安心して暮らせる仕組みを計画に盛り込んでほしい。また、一人暮らしの高齢者が安心して住み続けられるよう、住まいの確保や生活支援についても対策を充実させてほしい。

○古舘会長

これまでの評価を見ていると、健康面についての支援は細やかに行っている印象がある。子どもへの補助金などもあるので、高齢者に対する支援についても対応していけると良い。

■ 3. 備えと支え合いで安全・安心を育むまち（安全・安心）

○藤巻委員

子ども達にクマに対する対策の仕方などに関する安全教室を実施していただけると安心できる。特に寄地区では子ども達が登校中にクマと鉢合わせしたことがある。熊鈴だけで身を守るのは難しい。（本件は、経済・産業分野での記載も含め検討）

○古舘会長

特に山の多い地域ではいつクマが出るかわからないので、備えが必要である。

○太田委員

自助・共助・公助の連携を強化するとあるが、具体的にどういった形で強化するのか挙げていただきたい。民生委員では災害時用支援のリストを作成しているが、有事の時に本当に大丈夫なのか不安である。地域を1人では見切れない。

○山崎委員

一人では安否確認をすることしかできない。ある程度落ち着いてから名簿をもとに回っていくことしかできないのではないか。普段から付き合いのある近所の人同士で声を掛け合うのが現実的である。自治会はそれを増やすためにイベントを開催し、近所の人同士が顔を合わせる機会を作っているが、近年自治会に加入しない人は増えている。子ども会も無くなってしまったことが課題である。

○鈴木副会長

老人が多い神山の自治会では、近所で連絡を取り合ってもらっている。本当は子や孫がいると良い。人口も増える。

文言には自助・共助・公助の後に「近助」と入れた方が良い。

■ 4. 持続的に発展し、豊かな暮らしを育むまち【暮らし・基盤】

○鈴木副会長

寄地区の交通について、利便性の向上を引続きお願いしたい。ちなみにデマンドバスが廃止になってから、何か動きはあるか。

○事務局

デマンドバスの実証実験を踏まえ、秋から寄地区の夜間便の確保から始め、順次他の課題も解決できるようバージョンアップしていきたい。

○太田委員

空家対策は実際に町でやっていると思うが、知り合いで松田町に住みたい方は不動産へ行っても物件が無いと言われたそう。町民には具体的な取組が見えない。草が多いなど、危険な空き家は、防災面でも対策が必要ではないか。

○鈴木副会長

行政の力で空き家を循環させるシステムを作ってほしい。ただ、行政だけでは上手く行かない。地区のキーパーソンに協力をお願いして、空き家オーナーとの橋渡しをしてもらうような仕組みが有効ではないか。空家は固定資産税が安いので放置されているケースも多い。解体ではなく、改修といった実情を踏まえた対策が必要である。

○藤巻委員

寄では家は売っていないので、引っ越し際は直談判している。自分で何かをやりたい人が多い傾向なため、残置物ありでDIYできる条件にすると人気が出るのではないか。

■ 5. 賑わいと雇用を生み出し、働きがいを育むまち（経済・産業）

○陶山委員

商店街の中にも空き家が増えている。松田町は利便性が良い場所であり、若い世代には自分で店を開きたいという人も多いが、現在は渋沢の方が活気がある。何か要因があるのだが、それが何なのかが分からない。

○太田委員

町の起業支援を利用したが、町民でなければならない、以前も店舗だった場所でしか起業できないという縛りがあった。支援としては必要としている人が多いが、縛りが多いと利用したい人も利用できない。また、店舗が空き家であっても利用させてもらえないこともある。

○事務局

知り合い以外には貸したくないという考えの人もいるため、そのような状況になっている。

○太田委員

町外在住者でも、起業により松田町に税金を落としてもらえるなどメリットがあるので、支援の縛りを緩和していただきたい。

今は古民家を完全に綺麗にするのではなく、古さを残したまま店を開くケースが多い。山北町でもそういった店が増えている。

○小澤委員

店を始めても人通りが少ないため人が来ない。松田町に来てもらえるよう、商店街のような形で店が連なると良い。

■ 6. 自然と共生し、地球に優しい暮らしを育むまち（自然・環境）

○古舘会長

松田町の自然は最大の魅力である。最明寺道やハイキングコース、松田山の整備など、来訪者が自然を楽しめる環境を充実させることが重要である。

○鈴木副会長

山北に抜ける林道については、以前から整備を求める声があるが、落石の危険性や安全面の確保が課題となっている。観光ルートとしての活用も含め、安全対策と合わせて検討してほしい。

■ 7. みんなで協力し、みんなの力で育むまち（実現手段）

○古舘会長

4割以上が町政に関心が無いのは甚だ残念である。協働のまちづくりがお題目に過ぎなくなっているが、どうすればよいのか。忙しい人が増え、多様化が進んでいることは承知しているが、町のことを皆で考えられるようにならないか。

○小川委員

町内のイベントに関する情報は回覧板で回ってくるが、スポーツ大会などは経験者やいつも参加している方が行くのだろうと思うと、あまり魅力を感じない。もっと幅広く気軽に行けるようなものになってほしい。だれでも参加できるかけっこ大会などであれば、子どもを連れて行く人が増えるのではないか。若い世代は年配の方が多いと行きづらく、若い人だけしかいないと収集が付かなくなる。中間の世代はどちらも参加したいとは思えない。

○藤巻委員

子どもが参加できるものであれば親も行く。

○小川委員

小田原市のハイハイレースのようなものがあると楽しいのではないか。

○古舘会長

確かにスポーツイベントはルーチン化している。新しい試みで新しい交流が生まれるのも良い。

○小川委員

パークゴルフは子どもには貸してもらえない。かといってその場で遊ぶこともできない。

○小澤委員

中井町の運動公園のようになると良い。遊具、水遊び、売店などがある。

○小川委員

南足柄市の公園もリニューアルして遊具が増えたことで利用者も増えた。少し整備するだけで人は集まるようになる松田町にはそのようなスポットが無い。

高速が近いので、スポットがあれば都内からも人が来る可能性があるが、今は何もないため通り過ぎてしまう。

また、町内運動会の復活もできると面白いのではないか。

2. その他

○事務局

時間に限りがあったため、本日伝えきれなかったこと、他に何かご意見ありましたらご連絡いただきたい。

第3回審議会の日程については、町長の予定も含めて調整が必要なため、改めて連絡させていただく。

議題4 閉会

○鈴木副会長

本日は皆さん大変お疲れさまでした。会長がおっしゃった通り、松田町の基本的な方向性を皆さんと考えながら、すばらしい総合計画を一緒に作り上げていきたい。引き続きご協力をよろしくお願いします。

(閉会)